

板野中学校 同和教育だより

MY SKY 第8号

マイ・スカイ

2001年9月18日(隔週火曜日きまぐれ)発行

?(^_^)?

発行者

編集・文責
副吉成正士

こんにちは！約2ヶ月ぶりのご無沙汰でした。2学期もマイスカイ出していきますので、どうぞよろしくお願ひしまーす！

さて、夏休み中もそうですが、本当にいろいろな事件・出来事がありましたね。中でも、先週起きた「アメリカ同時テロ事件」は、本当に凄まじいといひ言ひようのない事件でした。何か、マンガか映画のワンシーンを見ているかのようなようでした。不幸にも亡くなられた方々に、お悔やみを申しあげたいと思ひます。また、行方不明になられた方々の一刻も早い安否の確認がなされることを、お祈りしたいと思ひます。

今回の事件は、近い将来、日本の政治・経済などに少なからぬ影響を及ぼしてくるようになると思ひますが、今私が一番気にかかっていることは、次の二つです。

1、罪のないアラブ系の人々やイスラム教信者者に危害を加える、心ない人々が出てくるかもしれないということ

2、アメリカの報復攻撃に、罪のない民衆が新たな巻き添えとなるかもしれないということ

関東大震災(1923年)が起こったとき、「井戸に朝鮮人が毒を投げ入れた」というまことしやかな噂が流れ、当時の日本人は自警団を組織し、「韓国・朝鮮人狩り」を行ったといひます。当然そんな事実は全くありませんでした。同じ人間として、「人間狩り」ができることを、凄く恐ろしく思ひます。しかし、もしかしたら自分もそれに近いことをしてしまうかもしれないません。それで「1」を考へてしまったわけす。全てが悪いわけではないのに……。

また報復攻撃についてですが、今回のようなテロを起こす可能性の高いテロリストについては、とりあえず私も賛成す。しかし、そのもとで罪のない一般民衆がまた犠牲となるようであれば、それは望むべきことではありません。長期間の報復攻撃となる可能性が高いと思われますが、そうなれば余計に犠牲者は増えるでしょう。必要のない新たな憎しみを生むこともあるわけす。「2」は、そういう意味で心配なわけす。

しばらくはこの事件から目が離せません。みなさんも一緒に「戦争」について考へてみましよう。



劇「SEASONS II」板中文化祭上演!

昨年文化祭などで上演した劇「SEASONS」の続編として、今回「SEASONS II」を文化祭で上演します。前作を観ていない1年生や先生方に、前作のストーリーと作者

である私自身の思いを簡単に紹介しておきたいと思います。

前作のストーリー

2年前の夏、フリーターをしているイチカワ(20才・男)と、専門学校に通っている同窓生のヤマモト(男)は、知り合いの紹介で海の家でアルバイトをすることになる。二人はそこで、短大1年生のケイコとサオリに出会う。サオリはイチカワに、そしてイチカワはケイコに惹かれていく。

ある日サオリはイチカワに告白するが、その気持ちがケイコにあることを知り、逆に二人の仲を取り持つようになる。

そしていよいよイチカワは、ケイコに告白する。しかし、そこでケイコから返ってきた言葉は「私、部落なんです」の一言。戸惑うイチカワは、親友のヤマモトに相談をする。しかしそこで返ってきた言葉は、またしても「オレもそうなんよ」の一言。そして親友ヤマモトから初めて聞かされた、家族を取り巻く部落差別の現実と、家族の闘う姿。イチカワは、今まで何も知らなかったことに大きな衝撃を受ける。

そんなとき、バイト最終日の前日に、ケイコの妹が不審者に連れ去られるという事件が起こる。イチカワはいても立ってもいられず、ケイコと車を走らせる。連れ帰り、送り届けた帰り際、イチカワは決意を込めてケイコを呼び止めるが、あと一言が出ない。

他人のことには一生懸命でも、自分のことには臆病なケイコ。自らその扉を開けられないケイコを、サオリは強く励ます……。

一方、自分を見失い、自分の本当の気持ちが見えなくなってしまったイチカワ。悶々としているイチカワに、ヤマモトは必死で詰め寄る……。

「今までオレはいったい何をしていたんだ!」「これからオレはどうすればいいんだ!」20歳の夏、イチカワの心は陽炎のように揺らめいた。

あれから2年、それぞれの時間を過ごし、4人に再び運命の出会いがおとずれた。そして……

実はこのシナリオに出てくる出来事のほとんど全てが、事実をもとに構成されています。それは私自身の経験であり、親しい人からの聞き取りであったりするわけです。ですから、まんざら「作り話」というわけではないのです。これからもその姿勢に変わりはないと思います。つまり私は、10代から20代前半の多感な時代を駆け抜けていく現代の若者像を、部落問題の視点から描きたいと思い、脚本化したわけです。

例えば事実という点からいうと、ヤマモトの家族では、

○差別にたえきれずアルコール依存症で亡くなった父親

○付き合って8年越しになる彼女の家族から結婚を反対されている兄

○職場で差別発言を聞き、居ずらくなって退職する姉

○奨学金の署名活動をし、部落差別解消に懸命な母親

○高校生とも かい かよ友の会に通い、高校卒業後もライフワークとして差別問題を学び続けるヤマモト

○付き合いすらも彼女の家族から反対されているヤマモト

であり、サオリの家族でいえば、

○母親に「お前やうちの子違う」と言われ、家を飛び出したことのあるサオリ
なんですね。

先のヤマモトに関しては、みなさんの先輩である卒業生たちから聞いた事実です。これでも「部落差別はなくなっている」と言う人がいれば、「それはあなたに見えてないだけ、見ようとしてないだけですよ」と言いたいものです。

サオリに関しては、私の友人が経験したことです。私もまだ20歳前後でしたが、その友人の家に飛び込み、両親を前にして、彼女の心しんきょう境について話したものです。

ケイコの妹が連れ去られるシーンもまた、私の友人が経験したものです。(みなさんも、不用意に夜である出歩いたり、よく知らない人について行かないように！)

そんな不安定な時代を生きる中で、イチカワやケイコの微妙びみょうに揺れる気持ちゆが、次の歌詞かしと重かさなりました。これは前作の挿入歌そうにゅうかの一部ですが、中でも「人はうれしいものだって それでも思っていていいよね」に、生きていく望みをつなげた微かな光ほのが感じられるように思えるんですね。

そしてそれは、前作のエンディングにそのままつながっていくわけです。それが、次の歌詞(一部)です。

「End roll」

……………

泣いても欲しがる 子供のようには
なれなくて精一杯のサヨナラ

そして歩いて行く ひとり歩いてみるから
君のいなくなった道でも 光照らしていけるよう様に
人はかな哀しいもの 人は哀しいものなの？
人はうれしいものだって それでも思っていていいよね
そして歩いていく 君も歩いてくんだね
ふたり別々の道でも 光照らしていける様に…

「immature」

……………

僕らはきっと幸せになるために
生まれてきたんだって
思う日があってもいいんだよね
ほら耳すを澄ませば聞こえてくる
内うちに秘めた祈いのりに似た叫さけびが
……………

僕らはきっと幸せになるために

私が同和教育に出会い、たくさんの人からいろんな話を聞かせてもらう中で思うことは、「人はみんな、幸せになるために生まれてきたんだ」ということなんですね。「不幸ほんきになりたい！」なんて本気で思ってる人って、いないように思うんです。でも「不幸だ！」って思い込み、その呪縛じゅばくから抜け出せずにいる人はたくさんいると思うんです。中学生のみなさんの中にも割わりといるんじゃないかな？部落差別の現実もまた、そういうところがあるように思えるんですね。かといって、「それが居心地いごころがいい

生まれてきたんだって
 思う日があってもいいんだよ
 本当は扉を開きたいんだって
 口に出して言ってみればいい
 口に出して言ってみればいい

か？」と問われれば、そんなことはないと思うんです。そういう人にはみんな「内に秘めた祈りに似た叫び」があり、「本当は扉を開きたいんだって口に出して言って」みたいんだと思うんです。

私は、本当の同和教育を通じて、そんなことが当たり前のように語り合える学校や社会にしていきたい

と思うのです。

さて、今年の挿入歌は次の2曲です。その歌詞の中にどんなメッセージを込めているか、それぞれの感性で読んでみてください。

「SEASONS」

今年もひとつ季節が巡って 思い出はまた遠くなった
 曖昧だった夢と現実の境界線は濃くなった
 それでもいつか君に話した 夢に嘘はひとつもなかった LaLa-i
 今日がとても楽しいと 明日もきっと楽しくて
 そんな日々が続いてく そう思っていたあの頃
 繰り返してく毎日に少し物足りなさを感じながら
 不自然な時代のせいだよと 先回りして諦めていた LaLa-i
 今日がとても悲しくて 明日もしも泣いていても
 そんな日々もあったねと 笑える日が来るだろう
 幾度巡り巡りゆく 限りある季節の中に
 僕らは今生きていて そして何を見つけるだろう

「SURREAL」

好きなモノだけを選んでくのが 無責任だってワケじゃない
 好きなモノさえも見付けられずに 責任なんて取りようもない
 背負う覚悟の分だけ 可能性を手にしてる
 いらぬモノならその同情心 まるで役にも立たないね
 大事なモノならそこに必ず 痛み伴うはずだよ
 ひとりぼっちで感じる孤独より
 ふたりでいても感じる孤独のほうが 辛い事のように
 どんなに孤独が訪れようと どんな痛みを受けようと
 感覚だけは閉ざしちゃいけない たと言葉を失くしても
 いくらどうでもいいなんて言たって

道につまづけば両手付いてる守ってる そんなモノだから

Ahー 指切りをしたあの日の約束は ひとりじゃ守りようがない

Ahー 語り明かしたいつかの夢だって ひとりじゃ叶えようもない

誰にも言えない誰かに言いたい あの人が誰より大切って

l a l a l aー どこにもない場所で 私は私のままで立ってるよ

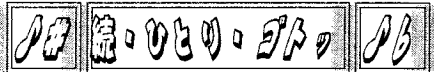
ねえ君は君のままでいてね そのままの君でいて欲しい

l a l a l aー どこにもない場所で 私は私のままで立ってるよ

ねえ君は君のままでいてね そのままの君でいて欲しい

さて、今回はどんな現実が4人を待ち受けているのか?!乞うご期待!!

なお前作の時、「ラストが中途半端で暗い」というご意見がありました。まだストーリーの途中だということをご理解していただいたうえで、本作品を見ていただければと思います。今回も文化祭終了後、「生活記録」でも感想文でもお手紙でもメールでもいいので、劇についての感想を是非お寄せください。今後の参考にしたいと思います。よろしく!!



■本当はもっと早く、マイスカイを「夏の行事報告」として出したかったのですが、劇のシナリオに手間取り出せませんでした。次回は劇の感想と一緒に出したいと思いますので、お楽しみに! ■どこのクラスも、また出し物をする団体も、いよいよ今週末が文化祭本番です。一緒にやる仲間とのつながりを大切に、最高の文化祭にしましょう! 「SEASONS II (11:30~予定)」もしっかり観てね!

告」として出したかったのですが、劇のシナリオに手間取り出せませんでした。次回は劇の感想と一緒に出したいと思いますので、お楽しみに! ■どこのクラスも、また出し物をする団体も、いよいよ今週末が文化祭本番です。一緒にやる仲間とのつながりを大切に、最高の文化祭にしましょう! 「SEASONS II (11:30~予定)」もしっかり観てね!



- 9月22日(土) 板中文化祭(「SEASONS II」11:30~; 体育館)
- 10月1日(月) 学習会解放子ども会, 3年生基礎学力テスト
- 6日(土) 13日の代休, 第6回部落解放徳島県学習会中学生集会実行委員会執行部会(14:00~; 同センター)
- 10日(水) 2年D組全体学習
- 13日(土) 6日に代わって登校日, 中部ブロック演劇交流会(藍住町役場)
- 16日(火) 1年D組全体学習